

# 加速するチャレンジ精神で

## 商圏拡大と競争力充実!

(株)日本レーザ

代表取締役社長

### 近藤 宣之



当社は昨年を、「商圏拡大の爆発の年」と位置付け、新規事業による市場開拓と既存市場の深耕を進めてきました。まさにその成果が表れ、業績的には過去最高の売上高となりました。

新規事業としては、ニユーポート社製品の販売を開始しましたが、特に微細加工の市場拡大に合わせ除振台などの新しい取扱い商材に対するニーズが高まっています。

既存の事業としては、かねてから普及を進めているタイムバンドウイズ社(英国)やアンプリチュード社(フランス)製のピコ

秒・フェムト秒レーザ発振器が、穴あけや切断、樹脂溶着、ソルダリングなど産業応用の裾野が広がっており、昨年の販売台数は一昨年を大幅に上回り、今年はさらに伸びそうです。

レーザ描画システムについてはハイデルベルグ社(ドイツ)、粒子径分布測定装置ではシンパテック社(同)の製品を販売していますが、これらも性能面、価格面で競争力のある装置なので、日本市場でも普及が進んでいます。

これらの商材については、これまでは「ワン・バイ・ワン」、すなわちそのレーザや装置を必要とする限られた顧客が、ある特定の加工をするために導入するケースが多かったのですが、徐々に大量生産ラインの現場でも用いられるようになっており、今年は一気にそれ

にその分野向けの提案力を強化中で、オミクロン社(ドイツ)製バイオ向け半導体レーザの市場における認知度が高まっている他、サイトビバ社(米)という電子顕微鏡用の蛍光モジュールの取扱いを始めるなど、ラインアップの層も厚

くなっています。そのような当社は、今年そのような当社として「ア・イヤ・オブ・ニュー・チャレンジ!」を掲げ、これまで以上に新たなチャレンジを加速させます。レーザ粒子計測装置など粉体加工アプリケーションの提案力

を強化します。国内ベンチャー企業の中で高い開発力を持った企業の製品も順次掘り起こし、市場に投入していきます。当社は商社なので、お客様・仕入先・当社社員を結ぶ「人間こそ財産」の思想で今年も事業を展開、売上高も前年比増で40億円突破を目指します。

